

1 岬水道事業の現状

- 岬町は大阪府の最南端に位置し、海岸線と山地に囲まれた地形となっている。
- 地理的な要因から、水道事業の効率性を示す有収密度は府内で4番目に低い。
- 岬水道事業は平成31年4月に企業団と統合。

- 1か月に20mを使用した場合の水道料金
3,810円/月（税込）
- ・平成19年5月に平均11.6%の値上げ
(18年以上水道料金の値上げを行っていない。)
- ・近隣市町に比べて水道料金は1番高い。

【近隣市町との比較】

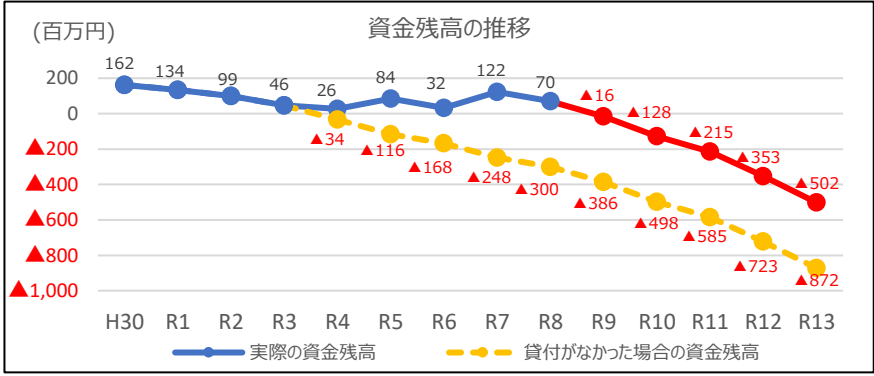
	水道料金	有収密度※
岬水道事業	3,810円/月	1.6
阪南水道事業	3,614円/月	1.9
泉南水道事業	3,204円/月	1.8
田尻水道事業	3,070円/月	2.6
熊取水道事業	3,090円/月	2.2

※有収密度：水道事業の効率性に係る指標で値が高いほど効率が高い。年間給水量（千m）÷送・配水管路の距離（m）×100



3 資金の状況・今後の見通しについて

- 統合前には、岬町から2億円の貸付を受けている。
- 岬町からの貸付金の返済(2,000万円/年)や令和4年度以降の損益赤字により、資金不足が続いている。
- この資金不足に対応するため、令和4・5・7年度には水道用水供給事業から合計で3億7,000万円の貸付を行った。
- それでもなお、**令和9年度以降は資金が不足する見通し。**



財政収支、資金の見通しを踏まえ、令和9年10月からの料金改定に向け検討を開始

2 財政収支の状況・今後の見通しについて

- 収入は、給水人口の減少に伴い給水収益が減少傾向にあり、今後も減少する見込み。
- 支出は、物価上昇の影響により浄水場の運転管理などに係る委託料が増加。また、老朽化した水道施設や設備の修繕、漏水による水道管の修繕や漏水対策により修繕費が増加している。
- さらに、孝子浄水場の水源である逢帰ダムの濁水等により淀川を水源とする水道用水供給事業からの受水に振り替えたことや、漏水による有収率の低下などにより、受水費が令和4年度以降増加している。
- その結果、令和4年度以降の単年度損益は赤字となり、今後も**恒常的な赤字が続く赤字幅が拡大する見通し。**

単位：百万円、千m

	R4 (決算)	R5 (決算)	R6 (決算)	R7 (決算)	R8	R9	R10	R11	R12	R13
収入	441	434	445	422	421	417	413	411	404	399
給水収益	382	384	378	370	366	361	354	347	341	336
支出	446	472	496	487	434	426	428	448	455	478
委託料	61	63	64	67	77	75	76	78	79	89
修繕費	28	44	39	33	38	44	35	35	36	37
受水費	132	146	142	131	108	90	88	85	83	81
収支(実質)	▲5	▲38	▲51	▲65	▲13	▲9	▲15	▲37	▲51	▲79

4 料金改定スケジュール（案）

年度・月	令和8年度			令和9年度		令和9年度 10月(予定)
	10月～12月	1月～3月	4月～5月	6月～7月	8月～9月	
岬水道事業 料金検討部会	料金検討部会での検討					改定後の料金の運用
経営・事業等 評価委員会	◆開催			◆開催 ・意見具申	◆7月全協 ・改定案説明	
運営協議会 首長会議	◆総会			◆総会	◆首長会議	
企業団議会	◆11月全協 ・報告開始					